

2007年11月5日(月) 10:30～11:30

【出席者】

代表取締役社長 社長執行役員	葉山 夏樹
代表取締役 副社長執行役員	小峰 健嗣
取締役 副社長執行役員	土屋 裕弘
取締役 副社長執行役員	下宿 邦彦
取締役 常務執行役員	柳澤 憲一
取締役 常務執行役員	浜岡 純治

【決算関連】

Q / 9月末の流通在庫はどの程度膨らませたのか？

A / 3月末と比較すると9月末両社で通常より0.2ヶ月分、約60億円増加した。2008年3月末には基本的に0.2ヶ月分を圧縮する予定である。旧田辺は受注当日出荷であったが、受注翌日出荷である旧三菱ウェルファーマの物流システムに統合したため、旧田辺分の在庫を1日増やすことになる。従って、2007年度下期中に約50億円分圧縮する。

Q / 旧三菱ウェルファーマの上期売上計画未達の原因は？

A / 子会社であるAPI社の医薬中間体の受託が落ち込んでいる。主要品目では、ラジカット、ウルソ、アンブラグ、テオドールなどが未達となった。ウルソはC型肝炎の適応追加を取得したことで、ディテール数を増やしているが、開業医への浸透が遅れている。今後、開業医向けに講演会などを積極的に実施する。ラジカットについてはDPCの進展による影響があった。テオドールは、想定を超える下落になった。ドライシロップの小児領域への適正使用推進の影響に加え、錠剤についてもドライシロップのネガティブな影響が及んだ。さらに、競合品(GSKアドエア)上市の影響も受けた。

また、今期は、MRの業績評価の時期を従来(9月末)より1ヶ月前倒し(8月末)したことで8月は実消化が伸びたが、9月にそれ以上に落ちたこともその一因と考えられる。

Q / 研究開発費が両社合算で上期25億円計画未消化となった理由は？

A / 個々のプロジェクトで進行が遅れているものがあつた。上期で25億円当初計画を下回つたので、通期では30億円減額修正した。

Q / 下期の販管費で人件費が減り、その他を増額している理由は？

A / 人件費は、上期に両社で実施した早期退職の影響と、退職給付費用の減少による。販管費その他は、GE事業の立ち上げに約5億円予算計上している。また販売シナジーの早期発現のため販売経費も増額している。

Q / 両社の会計制度の違いはどうか。また、新社ではどちらにあわせるのか？

A / 両社を比較して大きな違いはない。棚卸資産の評価方法と連結対象子会社の範囲の違いぐらいであると認識している。

【ディスシナジー】

Q / 5月に発表した事業計画ではディスシナジーは最大50億円ということであったが、レミケードのCOCなど現状はどうか？

A / レミケードについては今のところ変化はない。来年の5月にはもう少し正確にお伝えできると思う。

Q / レミケードに関し、2016年ごろにシェーリングプラウはいったん返還する契約だが、田辺三菱製薬の契約はどうなっているのか？

A / そのような契約にはなっていない。

【C型肝炎関連】

Q : フィブリノゲン製剤に関して418名の方へ、いつ頃までに、どれくらい人員をかけて告知するのか？

A : 先週の1週間で、すべての医療機関240軒あまりを訪問し、418名に対しご連絡をとって頂きたいと医療機関にお願いしている。しかしながら様々な問題もあり医療機関でも対応の難しさを認識しておられ、容易な状況ではないと考えている。国(当局)とも相談しながら最大限の努力を行う。この対応には当該医療機関担当のMR、その上司およびベネシスの血漿分画製剤担当も総動員してあたっている。

Q / C型肝炎訴訟で和解が成立すれば、別途、特別損失が発生することになるのか？約20億円の引当範囲ですむのか

A / 大阪高裁の和解勧告の内容による。現時点では、いままでの判決を基準として算出した額を引当ている。

【中計その他】

Q / 中期経営計画では、2010年の経営目標は(5月16日発表の数字から)変えないとの認識でよいか？

A / 現時点では、2010年を目標とする事業計画の数字は、(5月16日発表の数字から)動かさずに計画を策定する予定である。

Q / ウルソ、アンブラーグでは、これまで高めの計画が続いていたが、今後は、計画と実績は近づくことになるのか？

A / 次の中期計画も含めて立案の考え方は、営業本部のプロジェクトで検討しており、そこから出てくる数値をベースに立案していきたい。

以上